

三つ目のツダナナフシを発見

池田 大

Discovery of *Megacrania tsudai* with three-eyes

Hiroshi IKEDA

キーワード：ツダナナフシ, 奇形, 異常型, ナナフシ目

Key words : *Megacrania tsudai*, malformation, abnoemal, Phastomatodea

はじめに

飼育下でツダナナフシ *Megacrania tsudai* の異常型が見つかったので報告する。

発見日

20. XII. 2022 瀬川敬子確認

本個体は飼育メンテナンスの際に、橿原市昆虫館の飼育スタッフによって発見された。頭部の左側面が肥大しており、肥大部に通常個体には見られない複眼と突起が形成されている (図1 & 図2)。

また右前翅と右触角先端部の欠損も確認できるが、これらは羽化不全の影響と思われる。

本個体は発見時点で羽化間もない成虫であったことから、幼虫時にどのような頭部の形質をしていたかは不明である。

野外で採集された昆虫の形質異常として、チョウなどの斑紋異常やコウチュウの触角や附節といった付属肢異常などが確認されており (例えば柴谷, 1984; 遠山, 1984), 本個体も器官形成の過程で何らかの異常があったものと推察される。

当館では長年、ツダナナフシの累代飼育を行ってきたが、これまで今回のような個体が出現したことはなく、珍しい事例であると考えられるため、異常型の1事例としてここに報告する次第である。

なお本個体は、発見後速やかに twitter の当館公式アカウントで広報を行い、展示された。個体死亡後は標本にして当館で保管する予定である。

引用文献

柴谷篤弘, 1984. チョウの異常型はどうしてできるか. 月刊むし (159) : 8-16.

遠山雅夫, 1984. 甲虫に現れた付属肢異常 - 触角と脚の相同部位について -. 月刊むし (159) : 17-24.



図1. 異常型ツダナナフシの全形図



図2. 頭部拡大図